

日本脳炎ワクチン 入荷不足のお知らせ

日本脳炎ワクチンの定期予防接種に使用されている「ジェービックV」の入荷が不足しています。(製造上の問題が発生したため、製造を一時停止して原因究明を行い、是正を行った上で製造を再開していますが、出荷再開は2021年12月の見込みです)

これに伴い、2021年の日本脳炎ワクチンの供給量が例年に比べ大幅に減少しています。当院においても日本脳炎ワクチンの入手が困難な状況です。そのため、十分量のワクチンが確保できず、接種の延期や中止をお願いするなど、大変ご迷惑をおかけしております。供給が再開され次第、ホームページや院内の掲示板等でお知らせさせていただきます。

なお、日本脳炎が多発する海外地域への渡航を目的とした「感染症・予防接種・旅行外来」でのワクチン接種は、輸入ワクチンにて対応予定です。詳しくは同外来にてご相談ください。



自宅で過ごす患者さまの 作品展開催中

2月10日(水)より、「自宅で過ごす患者さまの作品展」が亀田クリニック1階ロビーにて始まりました。

今回も、工夫しながら趣味を楽しむ療養患者さまたちより、絵画、手芸、短歌等の作品を多数お預かりし、前半・後半の2回に分けてご紹介いたします。

期間：前半展示 2/10(水)～3/8(月)

後半展示 3/10(水)～4/12(月)

※日曜・祝日休館

地域連携小児夜間・休日診療について

当院では、地域の小児科の先生方と連携を取り、夜間や休日で小児の急病の場合に常時診療可能な体制を整えています。受診される際は、事前に代表番号(☎04-7092-2211)まで、電話連絡をお願いいたします。

<診療>・平日 夕方18:00～朝8:00

・土曜日 昼12:00～夜24:00

・日曜日・祝日 終日



救命救急センター 外壁補修工事のお知らせ

救命救急センターの外壁(東側/南側)補修工事を下記日程で実施しています。

工事中、騒音が発生する作業等がありますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

■工期 2月11日(木)～4月10日(土)

8:30～17:00 予定

※なお、天候により多少工期が変更になる可能性があります



新型コロナウイルス 感染者発生と対応について

1月12日、亀田総合病院の入院患者さま1名が新型コロナウイルス感染症に感染していることが判明しました。現在、手順に沿って対応中です。

【院内対応】

直ちに安房保健所に連絡し、濃厚接触者の評価を行っています。入院患者、当院職員の接触者に対し、PCR検査を実施し全員の陰性を確認しています。感染者との濃厚接触者に対しては、最終接触から14日間の健康観察を行います。

濃厚接触者のうち、健康観察を行っていた同室の患者1名に症状が出現し、1月22日にPCR検査を行ったところ陽性が確認されました。現在、新型コロナウイルス専用病床に入院中です。その他の同室患者の濃厚接触者については、一時的な発熱があった方には再度PCR検査を行いました。陰性を確認しました。さらに経過観察を行っています。職員については全員の健康観察期間を終了し感染者はおりませんでした。

2月2日と2月3日にそれぞれ1名の当院職員の新型コロナウイルスPCR陽性が判明いたしました。当該職員は経過観察中の病棟の職員であり、安房保健所に報告の上、手順に従って調査を行なっています。2月3日の時点では、調査の中で1名の職員の陽性が判明しましたが、それ以外の職員・入院さまに陽性者はいませんでした。引き続き調査と、経過観察を継続いたします。

地域の基幹病院である亀田総合病院、亀田クリニックともに、通常診療を継続いたします。

(2021年2月5日現在の情報です)

アレルギー性鼻炎 (花粉症)の治療

耳鼻咽喉科 岡本拓也



前回、花粉症の症状、原因、診断についてご紹介しました。日本人のおよそ5人に2人が花粉症と言われており、多くの方がつらい症状に悩まされています。くしゃみ・鼻水・鼻づまりによる集中力の低下、学習効率や労働生産性の低下、睡眠障害、イライラや倦怠感のために、生活の質が大きく低下してしまいます。

鼻アレルギーの自然治癒率は10数%とされているため、何らかの対策が必要です。今回は、我々の生活の質を著しく損なっている花粉症の治療についてご紹介いたします。

Q.花粉症の治療にはどんなものがあるの？

花粉症の治療には大きく分けて、①アレルギー(抗原)の回避、②薬物療法、③生物学的製剤、④アレルギー免疫療法、⑤手術療法があり、これらにより「症状がない、または、あってもごく軽度で、日常生活に支障のない状態」を目指します。アレルギーは「アレルギーを引き起こす物質」のことを言い、ここでは花粉を指します。それでは一つ一つ見ていきましょう。

①アレルギー(抗原)の回避

花粉を吸わないことがまず大切です。外出時にはマスクをし、帰宅時には玄関で衣類についた花粉を払い、屋内では窓や戸を締め切り、花粉の侵入を防ぎます。しかし、こまめな換気が必要なコロナ時代にあっては窓や戸は開けておくことが優先されますので、今シーズンは鼻症状を強く感じる方が多くなると予想されます。

②薬物療法

薬物療法には内服薬、点鼻薬があります。これらには体内のアレルギー反応を抑える効果があります。根本的に治すわけではないので、効果が持続するのは薬を使用している間のみとなります。

③生物学的製剤

アレルギーの回避や薬物療法だけでは効果が不十分

の方が対象となる新しい治療です。花粉によって体内に作られた抗体と結合することによって、アレルギー反応の元となる部分をブロックします。薬物療法と同様に、「治す」薬ではありません。血液検査の結果などにより通院頻度が定められ、2週間ごと、もしくは4週間ごとに注射を行います。

④アレルギー免疫療法

残念ながら当科では扱っておりませんが、体質を変える根本的な治療です。アレルギーの原因物質を少しずつ投与することで身体を慣らし、アレルギー反応を起こりにくくする治療です。皮下注射による皮下免疫療法、または舌下投与(舌の下に1分間置いた後に内服)による舌下免疫療法があり、いずれも十分な効果が出るのに3～5年かかりますが、その有効率は高く、長期的な効果があるとされています。

⑤手術療法

アレルギーの回避や薬物療法ではつらい症状を抑えきれない方に対して、当院では内視鏡を用いた手術を行っています。鼻の粘膜を変性させる「レーザー手術」、鼻の通りを良くする「下鼻甲介手術」、鼻水やくしゃみを抑える「後鼻神経切断術」などがあります。

レーザー手術は局所麻酔で行うことができ、日帰り手術のため簡便です。効果の持続は1～3年と言われています。数日間入院し、全身麻酔で行う下鼻甲介手術・後鼻神経切断術は、より長期的な効果が期待できます。

当院で行っている手術の一部を動画にしましたので、実際の治療の様子をぜひご覧ください。

※手術動画になりますので、苦手な方はご遠慮ください。



レーザー手術



後鼻神経切断術

Q.色々な治療があるのはわかったけど、結局どの治療が一番良いの？

それぞれの患者さまの重症度やニーズによって大きく異なります。年齢やかかる費用によって希望する治療が受けられないこともあります。花粉症の方もそうでない方も、つらい鼻症状にお困りの方は、まずは一度お気軽にご相談ください。

医師紹介

おかもと たくや 医師
岡本 拓也



- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言

- ①耳鼻咽喉・頭頸部外科
- ②鼻科学
- ③サッカー
- ④安全第一を心がけます



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>